



浮世離  
れた大洋心に  
雞ならぬ鷄は居る  
而も立派に晨は告げる

練習船丸運輸株主

孤鷄

船上に航行はつきものである。航  
海上に船出はつきものである。航  
赤いバラントがついたものである  
かさうからかく中子鳩子もそこ  
までは知らない。

笑顔でつてホールは引けた。  
熱い涙が目にこすり。

嬉しいにつけ又悲しいにつけ先  
立つものは

沙洲や暗礁のために

船舶出入は常に手間取り

いざ鎌倉の場合は危険千万

金門

外に馬蹄形の沙洲

二暗礁

船の運転をむべく、若人の運転  
やかな運びのせて船出する日は  
来たのである。大正十四年六月四日

沙洲の運転をむべく、若人の運転  
やかな運びのせて船出する日は  
来たのである。大正十四年六月四日

今年は單身で  
ひよつーり 加奈陀へ  
姿を現はした瀧本一郎氏

桑港から送還された

問題の白妻は?

桑港へ向ふ

北洋水兵の登場

沙洲の運転をむべく、若人の運転  
やかな運びのせて船出する日は  
来たのである。大正十四年六月四日

桑港出帆日本行  
午後四時出帆

沙洲の運転をむべく、若人の運転  
やかな運びのせて船出する日は  
来たのである。大正十四年六月四日

船の運転をむべく、若人の運転  
やかな運びのせて船出する日は  
来たのである。大正十四年六月四日











